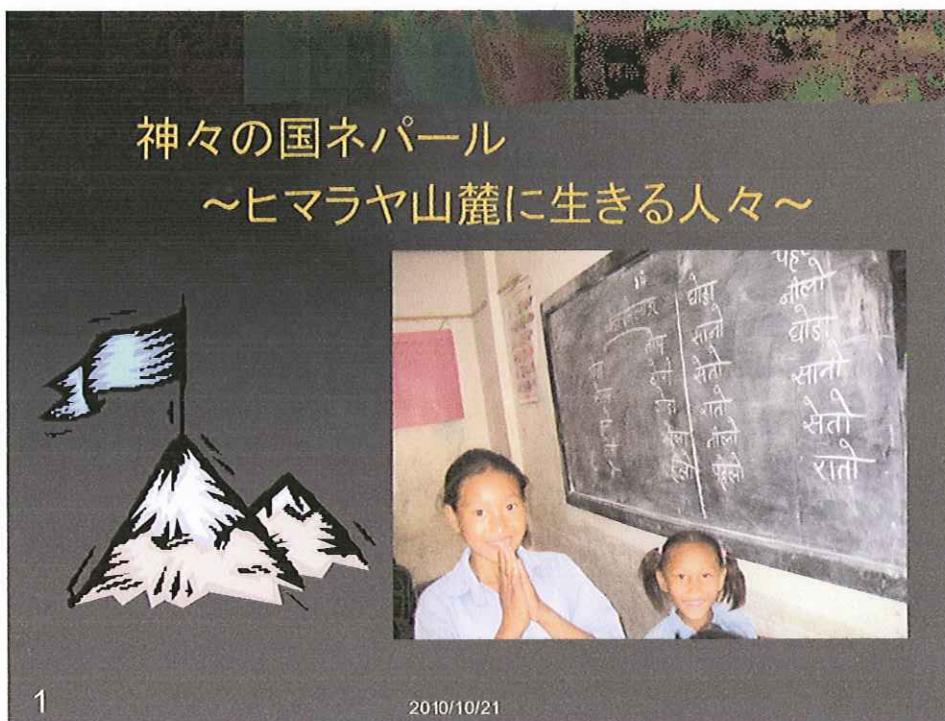


「ネパールで生きる子どもたち、日本で学ぶ私たち」

愛媛県立三島高等学校 合田明典



1 授業のねらい

愛媛県立三島高等学校は、大王製紙株式会社を中心とした製紙業を主幹産業とする四国中央市に所在している。近年、書道部、美術部、フェンシング部、ラグビー部等の活躍が目覚ましく、今年度は本校書道部をモデルとした映画「書道ガールズ」が公開された。また、国際交流活動も盛んで、スペインのホセミゲル＝バルディラン高校とのスカイプによる授業交流、ニュージーランドやアメリカからの留学生の受入れや、オーストラリア及び中国への修学旅行等を実施している。また 2008 年には、オーストラリアのキララハイスクールと姉妹校になり、来年度は中国の学校とも姉妹校提携を結ぶ予定になっている。卒業生の多くは地域の紙関連会社に勤務し、アジアを初めとする世界各国との交流する機会があることから、国際交流は今後さらに重要性を増している。

しかし、当然のことながら愛媛の片隅で学ぶ生徒たちは、世界の中で生きている自分自身の存在について相対化することは難しく、ステレオタイプ化した先進国や途上国のイメージを鵜呑みにすることもある。さらに現在の日本は、長引く不況の影響もあり、拜金主義や自己中心主義が蔓延している。数年前のライブドア事件やさまざまな食品偽装事件の記憶も新しく、「コンプライアンス（法令遵守）があれば何をしても許される。」「自分さえよければいい。」「とにかく勝ち組になりたい。」という価値観が見られる。また、自殺者数はO E C D 加盟国の中でロシアに次いで第 2 位（人口比ではアメリカの約 2 倍、イギリスの約 3 倍）であり、命を大切にする機運が減退している。子どもは社会の鏡というように、生徒たちは社会の風潮の影響を受けている。これらの世相が、青年期の若者が持つべき崇高な志や生き方の模索を阻害し、不登校生徒が増加し続ける一因になっているように思われる。

このような生徒たちを取り巻く地域や社会の現状から、途上国に生きる人々から学ぶことができないかと考えた。そのような時に、私自身 JICA 四国が主催する「教師海外研修」に参加する幸運に恵まれ、ネパールの学校を訪問して、厳しい環境下にありながらネパールの子どもたちが目を輝かせながら学んでいる様子に感銘を受けた。と同時に、日本は彼らよりも遙かに生活環境や学習環境が恵まれているにもかかわらず、目をよどませながら惰性で学校に通っている生徒も多いことを思い浮かべ、この違いは何なのだろうかと考えざるを得なかった。そして、このことを生徒たちに投げかけることにより、日本の生徒が抱える問題を打ち破るとともに、自己の在り方に気付き、生き方を模索する一助となると考え、今回の学習を設定した。

授業は、世界史 A（2年生）の年間計画の中から3時間捻出して実施した。授業の結果として「自分はネパールに生まれなくてよかった。」というような感想とならないよう留意し、関心を持って共感的態度で異文化を理解し、自己の生き方を再考して「良く生きる意味」を見出すことを目指した。

2 学習指導案

(1) 対象クラス 高校2年生 商業科 2クラス

(2) 教科・科目 地理歴史科・世界史A

(3) 指導目標

- ① ネパールについての概略を理解させ、興味・関心や知的好奇心を持たせる。
- ② 共感的態度で異文化理解を進め、ネパールの抱える諸問題を考えさせる。
- ③ ネパールの人々の生き様から学ぶことにより、自己の生き方の変容を図る。

(4) 指導計画

【1時間目】ネパールを知ろう

アクティビティ：「音楽」「お香」「ネパールクイズ」

【2時間目】異文化を理解しよう

アクティビティ：「フォトランゲージ」

【3時間目】ネパールに生きる人々と日本の私

アクティビティ：「ディスカッション」

(5) 授業の展開

【1時間目】

- ① テーマ：「ネパールを知ろう」
- ② ねらい：ネパールクイズを通じ、ネパールに対して親しみと関心を持つ。

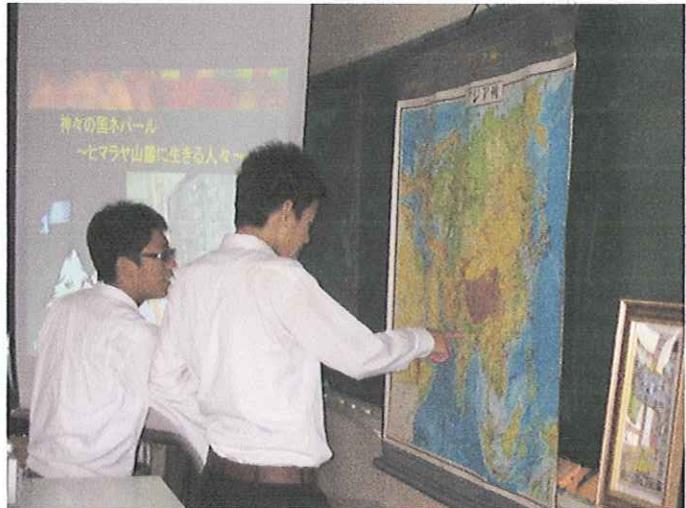
③ 指導内容

指導の流れ	方法・内容	使用教材
〔導入〕 5分 1 関心・意欲を高める。	①ネパール音楽を聴く。 ②ネパールのお香をたく。 ③ネパール学習の目的を説明する。	・ガネーシャ像等 ・ネパール音楽 ・ネパールのお香
〔展開〕 35分 2 ネパールを知る。	④ネパールの場所を地図で確認し、 学習プリントの白地図に色を塗る	・学習プリント ・アジア地図

	<p>⑤学習プリントを使い、ネパールクイズに挑戦する。</p> <p>⑥パワーポイントを使って生徒に答えを予想させながら解答をし、その内容について解説する。</p> <p>⑦クイズの解答を基に、班で話し合いをし、意見を交換する。</p>	・パワーポイント
[まとめ] 10分 3 意見を交換する。		

④ 授業の詳細

ヒンドゥーの神様の像や絵を飾り、ネパールの音楽をかけ、お香をたき、雰囲気を盛り上げて興味・関心を持たせることに努めた。視覚、聴覚、嗅覚に訴えたことへの生徒の反応はよく、特にお香は興味津々で自分から香りを嗅ぎに行き、多くの生徒が歓声を上げていた。その上でネパールについて学ぶ意義を、私が今回ネパールを訪問しようと思った心情を語ることにより説明した。世界にはたくさんの文化や価値観があること、視野を広げて異文化を知ることにより自分自身を相対的に見ることができること、異文化を理解することが共に生きる第一歩であること、途上国を見る時に決して上からの目線で見るのではなく人間として尊敬や尊重の念を持つことが大切であることなど、こちらが投げかけることを、生徒たちは真剣に聞いていた。



授業の内容としては、まず地図でネパールの場所について確認し、ネパールクイズを実施した。分からぬところは話し合いをさせ、生徒に質問をしたり、なぜその答えを選択したのか理由を考えさせたりした。パワーポイントで写真を織り交ぜながら解答・解説をした後に、クイズの解答を基に意見交換をさせ、発表した。生徒たちの反応は良く、パワーポイントで解答を出すたびにどよめきが起こった。正答率が極端に低い設問もあり、生徒たちはその予想外の結果に驚いていた。なかでも 8000m もの標高差や、国民所得の少なさに言葉を失っていた。

⑤ ネパールクイズ

(1) ネパールの位置を地図で示しなさい。(正答率 92.3%)

※ インド文化圏の影響が強いことを、ヒマラヤ南麓に位置する地理上の特徴から考えさせた。

(2) ネパールの首都は次のうちどこでしょう。(③正答率 41.0%)

- ①ニューデリー ②イスラマバード ③カトマンズ ④ダッカ
- ⑤スリジャヤワルダナプラコッテ

※ 分立前の大インドであるインド・パキスタン・バングラデシュ・スリランカの首都と対比させ、周辺諸国の歴史上の経緯を理解させた。

(3) ネパールの正式名称は何でしょう。(②正答率 23.0%)

- ①ネパール王国 ②ネパール連邦民主共和国

※ 2008年5月末に王政が廃止になり共和国になったことを、王室殺害事件、ギャレンドラ国王への不満、マオイストの暗躍などの政治不安と民衆への影響を説明した。

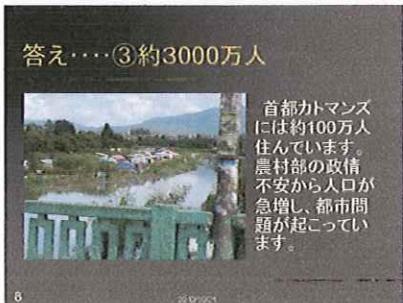


(4) ネパールの人口はどれくらいでしょう。(③正答率 15.4%)

- ①約30万人 ②約300万人 ③約3000万人

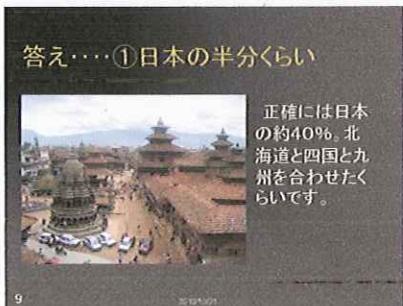
- ④約3億人

※ ここ数年で人口が急増し、カトマンズに流入している様子とその影響について考えさせた。



(5) ネパールの面積はどれくらいでしょう。(①正答率 89.8%)

- ①日本の半分くらい ②日本と同じくらい ③日本の倍
④日本の10倍



(6) ネパールは山岳国家ですが、標高差はどれくらいあるでしょう。(④正答率 12.8%)

- ①約1000m ②約2000m ③約4000m ④約8000m

※ 日本の約4割の面積のネパールの標高差が約8000mもある地理的制約が、交通網の整備や流通、子どもたちの通学など生活全般に渡って影響していることを考えさせた。



(7) ネパールの一人当たりの国民所得はどれくらいでしょう。

(①正答率 33.3%)

- ①日本の約1/150 ②日本の約1/50

- ③日本の約1/15 ④日本の約1/5

※ ネパールの一人当たり国民所得が約2万7500円にとどまっていることから、ネパールの抱える経済的問題について考えさせた。



(8) ネパールで生まれた宗教上の偉人はだれでしょう。

(②正答率 74.4%)

- ①イエス=キリスト ②仏陀(ブッダ) ③ムハンマド

- ④ガネーシャ



(9) ネパールで約8割の人が信仰している宗教は何でしょう。

(④正答率 41.0%)

- ①キリスト教 ②仏教 ③イスラム教

- ④ヒンドゥー教

※ ネパールの人々の生活が宗教に密着している様子を伝え
た。

答え……④ヒンドゥー教



ヒンドゥー教徒
が約8割。仏教
徒は約1割です。
やはりインドの影
響が強いようです。

18

(10) ネパールではどのようにして食事をするのでしょうか。

(③正答率 100%)

- ①お箸を使う ②ナイフとフォークを使う

- ③直接手で食べる

※ 食事、トイレなど異文化の生活について考えさせた。

答え……③直接手で食べる

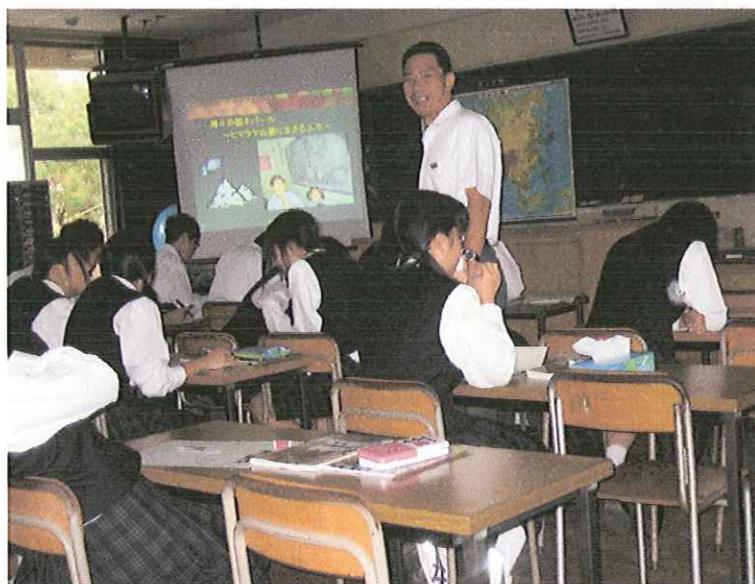


必ず右手で食
べ、左手(不淨の
手)は使いません。
ダルバート(豆カ
レーごはん)が定
番です。

19

⑥ 生徒の感想

- ・ 2008年に王国ではなくなり、王様がただの一市民になったということに驚いた。よっぽど不人気だったのだろう。王様は今はどんな生活をしているのか想像してしまう。
- ・ 日本の4割ほどの面積しかないのに、標高差が8000mもあるということは、国中が急斜面になっているのではないか。道路を作るにしても、国内を移動するにしても大変だと思う。学校に行く子どもは、いつも山道や坂道を歩いているのだろうか。
- ・ 所得があまりにも低いのでびっくりしました。日本で働けば2~3日で稼げるお金しか、一年間で稼ぐことができない。物価も安いとは思うけど…。先生が言っていたように、外国に働きに行く人が多いのもうなづける。僕がネパール人でも、きっと日本などに出稼ぎに行くと思う。
- ・ ほとんどの人がヒンドゥー教を信仰していたのは意外だった。仏教徒の多い国だと思っていた。
- ・ お釈迦様は今で言えばネパール人ということを知り、何だかネパールを身近に感じた。
- ・ 食事は右手、トイレは左手と、手を直接使うことが多い。世界にはいろいろな文化があると改めて実感した。食事は試してみたい気がするけど、トイレはなかなか厳しいです。



【2時間目】

- ① テーマ：「異文化を理解しよう～フォトランゲージに挑戦～」
- ② ねらい：写真から情報を読み取り、班で話し合うことにより、ネパールの風土や文化、課題について理解を深める。

③ 指導内容

指導の流れ	方法・内容	使用教材
[導入] 5分 1 フォトランゲージの方法を知る。	①フォトランゲージについて説明し、パワーポイントを使って練習をする。 ②班分け（6班）をする。	・アジア地図 ・パワーポイント
[展開] 35分 2 フォトランゲージを実践する。	③配られた写真を基に、班ごとで話し合いをする。 ④代表者が発表をする。 ⑤パワーポイントを使い、補足説明をする。	・封筒、写真×6枚 ・とりのこ用紙、付箋 ・パワーポイント
[まとめ] 10分 3 意見を交換する。	⑥自分の班の内容だけでなく、他班の発表について感想をまとめ、意見交換をする。	

④ 授業の詳細

まず始めに、フォトランゲージの方法について説明し、サンプル写真で練習をした。生徒にとっても初めての取り組みだったが、生徒たちは興味津々だった。次に班分けを行い、封筒内に入れた写真を見て各班で話し合いをさせた。生徒たちは意欲的に取り組み、予想以上に活発な意見交換がされていた。各班の代表者が発表をし、授業者が補足説明を行った。生徒たちは初めての取り組みでありながら大変意欲的であり、雲の様子から気候、建物の様子から耐震性など、授業者が予想した以上に細かなことまで発見して話し合うことができた。最後に、他の班の発表内容も含めて、感じたことを学習プリントにまとめ、意見を交換した。班は6班を編制し、授業者が現地で撮影した下記の写真を使用した。

フォトランゲージの練習

■ この写真を見て、何に気付きますか？



28 2019.10.21

例えは……

- 青い布は民族衣装かな。
- 親はいないのだろうか？
- なぜ子どもが子守をしているのだろうか？
- 両親とも仕事に行っているのかな。
- みんなサンダルをはいでいる。普通の靴は履かないのだろうか。
- 昼間なのに学校に行かなくてもいいのかな。
- 3人兄弟のようだが、出生率は高いのかな。



29 2019.10.21

⑤ フォトランゲージの写真

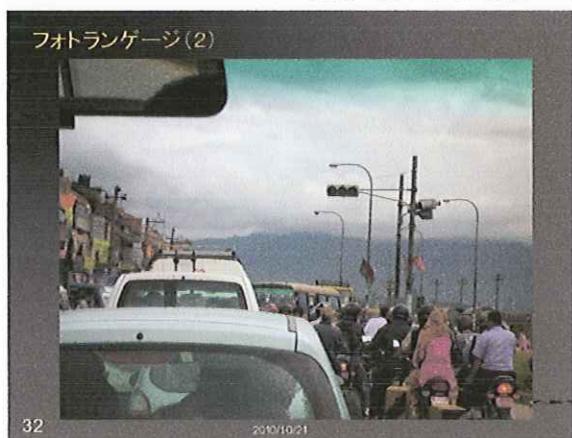
【1班】ガソリンスタンドに並ぶ長蛇の列

- ・生徒の主な意見……仕事を求めて職業安定所のようなところで待っているように見える。
一番前の人気が疲れている。後ろのバイクを売りにきているのかな。



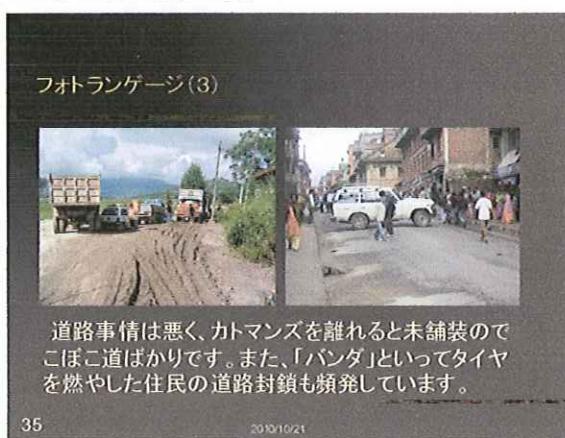
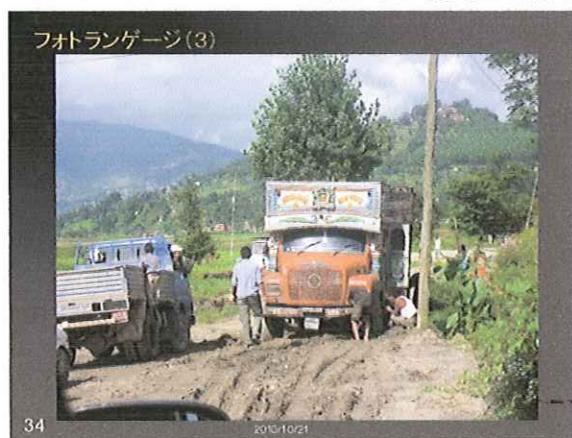
【2班】数少ない信号機、しかし電力の整備が不十分で作動していない…

- ・生徒の主な意見……大渋滞している。車もバイクも多い。どちらの信号も点いていない。
空がどんよりと曇っている。ネパールはどういう気候なのだろうか。



【3班】未舗装のでこぼこ道路と、悪路にはまったトラック

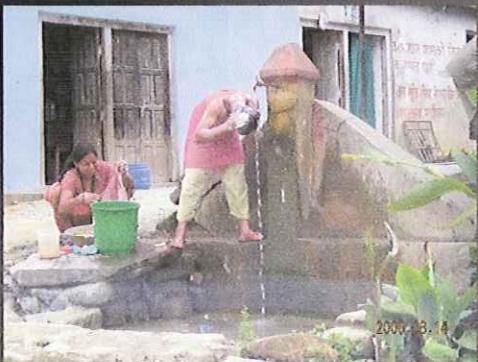
- ・生徒の主な意見……道路が土のままで、うまく走れない。舗装している道路はないのかな。
みんなで協力して修理しているように見える。



【4班】共同水場で洗髪する女性

- ・生徒の主な意見……頭を洗ったり、洗濯をしている。家の中にお風呂がないのかな。
この水道はだれでも使えるのだろうか。料金はかかるのか。

フォトランゲージ(4)



36

2010/10/21

フォトランゲージ(4)



37

2010/10/21

【5班】道路に横たわる牛

- ・生徒の主な意見……牛が道路をふさいでいる。人力車みたいな乗り物がある。
バイクの2人乗りをしている。ヘルメットをかぶっていない。

フォトランゲージ(5)



38

2010/10/21

フォトランゲージ(5)



39

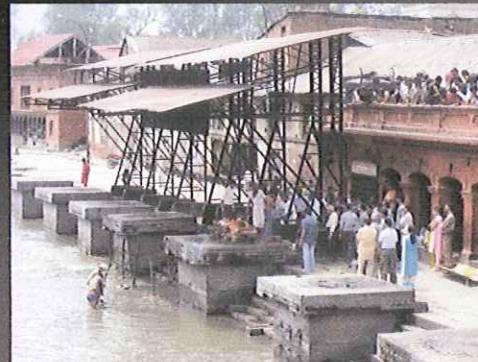
2010/10/21

ヒンドゥー教徒にとって牛は聖なる生き物で、信仰の対象でもあります。また、多くの女性は民族衣装サリーを着ています。

【6班】バグマティ川と火葬の様子

- ・生徒の主な意見……泥色の川の中を歩いている人がいる。
何かの宗教的な儀式の最中のようだ。

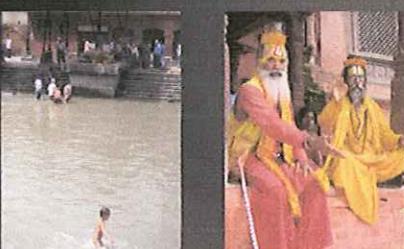
フォトランゲージ(6)



41

2010/10/21

フォトランゲージ(6)



42

2010/10/21

ヒンドゥー寺院での火葬の様子です。カトマンズ市内を流れるバグマティ川はガンジス川の上流にあたり、死者は聖なる川へ還るのです。沐浴する人も多くいます。

⑥ 生徒の感想

・ 日本もガソリンの価格が上昇して大変だけど、手に入るだけ幸せだと思った。丸一日もガソリンスタンドに並ぶなんてありえない。並んでいる人はその時間、仕事は大丈夫なのだろうか。

・ カトマンズは人も車もバイクもすごく多く、信号なしであれだけの交通量が交差点に突っ込んでいくという交通事情はすさま

じかった。事故が起こらないのが不思議なくらいです。

- ・ バイクの二人乗りが多かったけど、後部座席に人がヘルメットをかぶっていないので危ない。
- ・ 共同の水場を使っていた。私なら人前（しかも道端）で髪を洗ったりするのは嫌だけど、もしも家の中に水道がないのなら仕方なくそうするのかも。
- ・ 水場では洗濯もしていた。家の近くに水場があればいいけど、もしなければどうするのだろう。
- ・ 火葬の写真は衝撃的だった。日本では亡くなった方の遺体を目にするとはそうはないけど、ネパールでは身近ことなのかもしれない。
- ・ ネパールの人は、宗教に対して前向きだと思いました。彼らからすると、日本人の神様への信仰心の薄さに驚かれると思う。



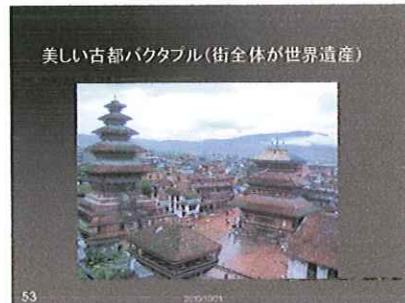
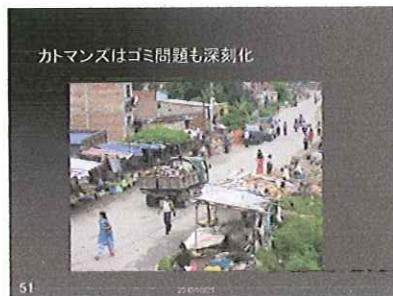
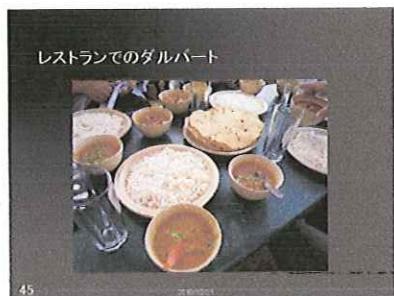
【3時間目】

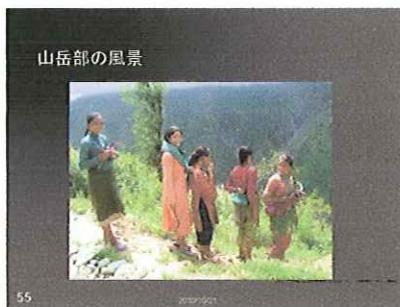
- ① テーマ：「ネパールに生きる人々と日本の私」
- ② ねらい：ネパールで学ぶ子どもたちの様子と、日本で生きる自分自身の姿を相対化させ、国際協力の重要性や自己の在り方・生き方について考えさせる。
- ③ 指導内容

指導の流れ	方法・内容	使用教材
〔導入〕 5分 1 ネパールで学ぶ子どもたちの環境や様子を知る。	①ネパールの人々の様子を見る。 ②ネパールの子どもたちが学校で学ぶ様子を見る。 ③青年海外協力隊の活躍する様子を知る。	・パワーポイント
〔展開〕 35分 2 ネパールで学ぶ子どもたちから学ぶ。	④ネパールの子どもたちが置かれた生活環境や学習環境について考える。 ⑤不十分な環境の中でも「人の役に立つ」生き方を志し、生き生きと学ぶネパールの子どもの姿を紹介する。 ⑥「サンガイ・ジュネ・コラギ」のエピソードを紹介する。 ⑦日本に生きる自分自身の生き方や学ぶ姿勢について考える。	
3 日本で学ぶ自分自身の在り方を考える。	⑧ネパールについて学び、感じ、考えたことを学習プリントにまとめる。	
〔まとめ〕 10分 4 感想をまとめ、意見を交換する。		・学習プリント

④ 授業の詳細

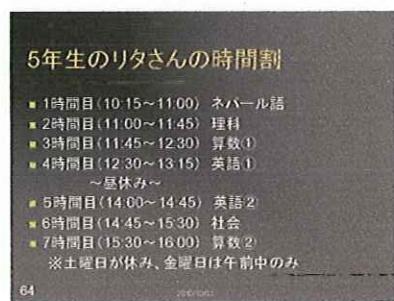
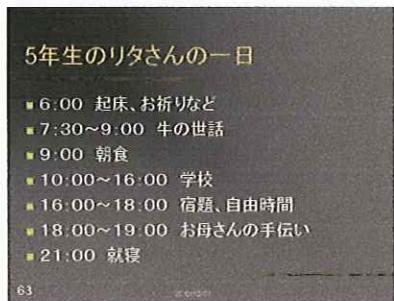
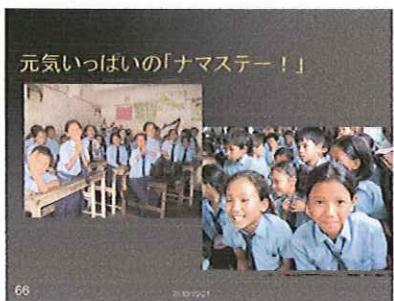
これまでの2時間の授業で学んだことを基に、パワーポイントを使ってネパールの人々の様子や学校で学ぶ人たちの様子に触れ、私自身が感じたこと、伝えたいことをダイレクトに生徒たちに投げかけた。まず最初に、授業者の現地での体験談を交えて、ネパールの社会の様子を紹介した。



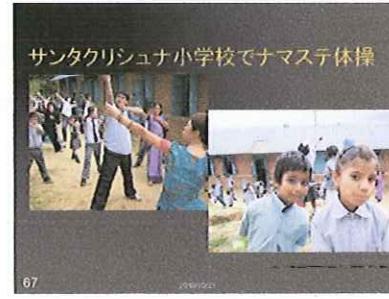


小学校5年生のリタさんの一日や学校の時間割を通して、ネパールで学ぶ子どもの様子を紹介した。生徒たちは1時間目のネパールクイズから8,000mの標高差があることを思い起こし、電気のない生活や毎日遠くまで水汲みに行く生活の大変さを指摘する意見があった。

また、カリキュラムにいわゆる5教科以外の体育や家庭科等がないことに気付き、その理由について意見を交換した。

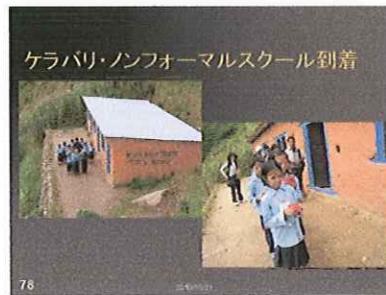
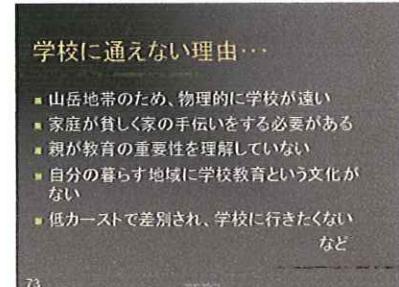
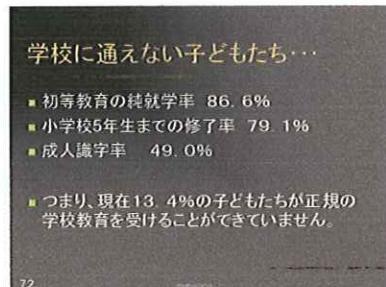


ネパールでのJ A C Aの活動に加え、青年海外協力隊として活躍する若い日本人女性の姿や、マナバ特別学校の校舎が日本人ボランティアの手で建築されたことを紹介した。このような方がたくさん活動されている様子に触れて、「同じ日本人として誇りに思う。」と感銘を受ける生徒が多くかった。特に、自分たちと近い世代の若者が活動している様子に、生徒たちは刺激を受けていた。



次に、学校に行きたくても行けない多くの子どもたちの現状を説明した。その中で、なぜ学校に通えないのか理由を生徒たちに考えさせ、発表させた。このあたりから、教室の雰囲気や生徒の目が「楽しさ」から「真剣さ」に変わってきた。

正式な学校がなく学校に通えない子どもたちのために、ノンフォーマルスクールが村人たちの協力で営まれていることや、子どもによっては1時間以上かけて山道を歩き、学校の通っていることを知らせた。特に、山間部にあるノンフォーマルクラスで学ぶ子どもたちの様子に心打たれる生徒が多くかった。



授業者が現地でネパールの子どもたち行ったアンケートを基に、生徒たちに次の3つの発問をした。

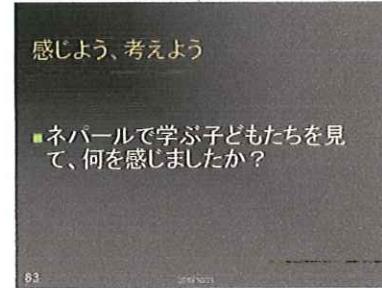
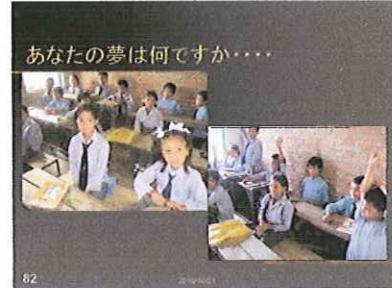
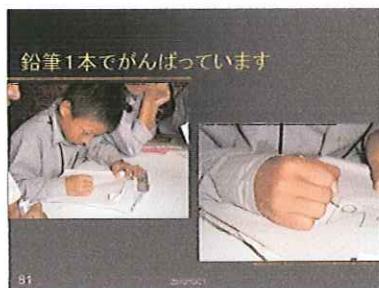
- 彼らが一番楽しい時間は何をしている時だろうか。**
- 彼らが今一番欲しいものは何だろうか。**
- 彼らの将来の夢は何だろうか。**

生徒たちが予想した答えは次の通りだった。

- 楽しい時間は……友達と遊んでいる時間。**
- 欲しいものは……おもちゃ。生活必需品。洋服。**
- 将来の夢は……お金持ちになること。おなかいっぱいご飯を食べること。**

生徒たちの発表を受け、ネパールの子供たちの声を発表した。

- 楽しい時間は……学校にいる時間。**
なぜならば、将来のために勉強ができる。お手伝いをしなくてもいい。
- 欲しいものは……教科書。勉強道具。石鹼。**
なぜならば、自分の教科書はなく、学校に新しい教科書も届いていない。鉛筆がない。
- 将来の夢は……お医者さん。学校の先生。**
なぜならば、人の役に立ちたいから。



授業者自身がネパールの学校を訪問したときに、「今、一番欲しいものは石鹼。」という物不足の暮らしをしているにもかかわらず、自分のことよりも将来は人の役に立つ生き方をしたいと答えるネパールの子どもたちの姿に、大変感動を覚えた。授業で学ぶ生徒たちも、これと同じ心情を持ち、何のために働くのか、何を目的として生きるべきかについて考え、「お金持ちになることが人生の目的ではない。」「自分自身の職業観を考えさせられた。」というような意見が出された。

そこで、岩村昇氏（愛媛県宇和島市出身）の「サンガイ・ジュネ・コラギ」の話を紹介した。

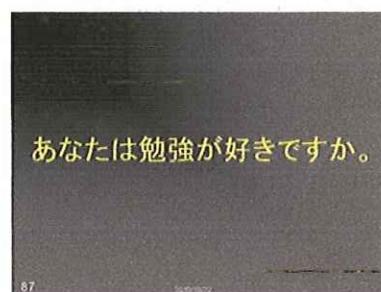
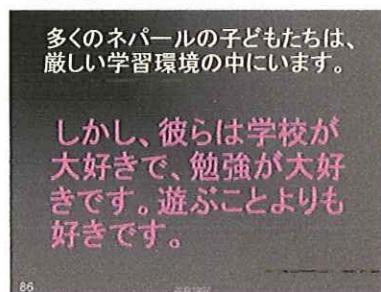
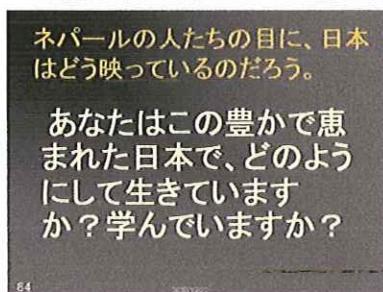
岩村 昇氏（1927～2005）

愛媛県宇和島市出身の医師。日本キリスト教海外医療協力会からの派遣ワーカーとして、1962年ネパールに赴任。当時平均寿命37歳というネパールで医師として18年間活躍した「ネパールの赤ひげ」。「アジアのノーベル賞」と呼ばれるマグサイサイ賞を受賞。

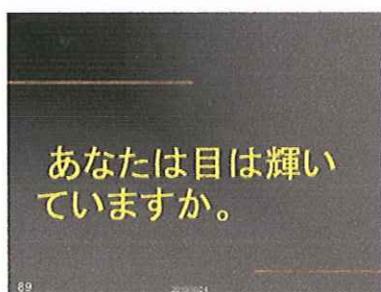
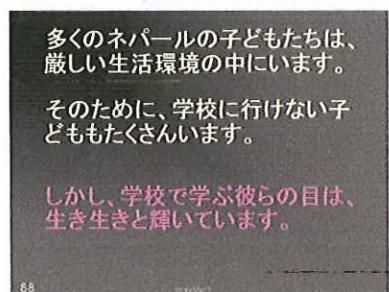
「サンガイ・ジュネ・コラギ」の話

岩村医師がネパールに結核予防のための病院を作り、村から病人を運ぶことになったが、山岳国家のネパールは村から村へ行くのに山道を何日も歩かなければならなかった。そのときに、ある青年が3日3晩かかって結核をわずらった老人を病院に運んできた。岩村医師がその青年に謝礼を渡そうとすると、青年は受け取りを拒否し、「自分たちが一緒に生きるために、力のある自分が、この人に提供することに対して、報酬を出すということは自分たちの侮辱ではないか。」と憤慨した。岩村医師は、その青年の言葉「サンガイ・ジュネ・コラギ（共に生きる）」という言葉に胸を打たれた。

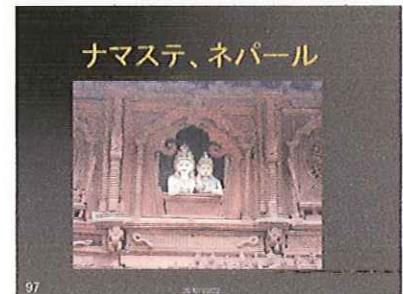
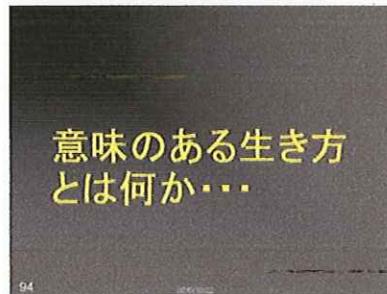
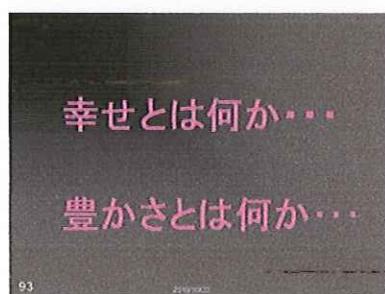
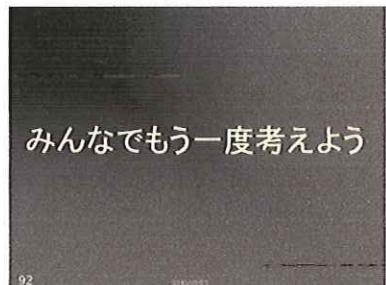
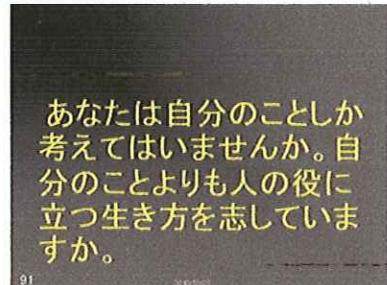
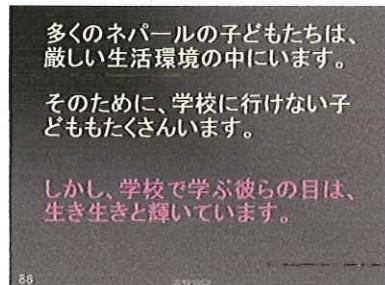
そして最後に、日本の社会や自分自身の在り方について見つめさせた。授業者自身が自分の思いを語り、生徒たちの心情に訴えかけた。



多くの生徒は、厳しい環境にめげずに生き生きと勉強をするネパールの子どもたちと、自分が学校生活や勉強に取り組む姿勢を比較し、自己の在り方を内省的に振り返っていた。



ここでも、「勝ち組」「負け組」という言葉に代表されるように、日本は自分さえよければいいというミーイズムが蔓延しており、自分のことよりも人の役に立つ生き方を志すネパールの人たちに学ぶことは多いという意見が多くかった。



⑥ 生徒の感想

- ・ 養護学校で若い女性が青年海外協力隊員として働いていた。同じ日本人として、何だか誇らしい気持ちになった。また、同世代として刺激を受けた。
- ・ ネパールに限らず、世界中には学校に行けない人や勉強が好きで勉強したいのにできない人がいっぱいいるのに、私は勉強なんか嫌いで学校にはできれば行きたくないと思っていた、自分が恥ずかしくなりました。
- ・ ネパールの人たちの生活を見て、もっと1日1日を大切に生きていかないといけないなと思いました。私は勉強があまり好きではないので、今回をきっかけに学べることのありがたさを忘れないようにしたいです。人のために尽くす人生を過ごしたいと思いました。
- ・ ネパールの授業を受けて、自分はとてもわがままで人のことをあまり考えずに生きていたと思います。僕もネパールの人を見習って、人のために生きると言えるような生き方をしていきます。
- ・ この3時間のネパールについての授業を受けて、ネパールについての感じ方が変わりました。はじめは貧しい国を見ても「あの国へ生まれなくてよかった。」などと軽い気持ちで見ていたけど、この3時間で自分の心の中が変わりました。今まででは面倒くさがっていたけど、これから募金をするチャンスがあれば自分から動いていきたい。
- ・ かわいそうと思うのではなく、身近な募金などの活動をしたり、今ある生活を大事に思って毎日を大切に生きたいです。ネパールの授業を通して、そして今日の授業はとても感動しました。長くて書き切れませんが、なんだか泣きそうでした。
- ・ 私たち日本人は、生活は豊かですが決して心は豊かではありません。他者のことを考えるのは二の次で、第一は自分自身になっていると感じます。私もいつの間にか互いを比較しあい、他人の能力をうらやむようになっていました。ネパールの人々のように互いが学び合い、協力しながら日々を送ることができなくなってきたんだと、写真の一枚一枚から痛感しました。

3 成果と課題

3時間の授業の全編を通してパワーポイントを活用した。最初に2時間は、暗く重い雰囲気にならないように配慮し、自由かつ楽しい雰囲気で授業を進めた。最後の時間は、ネパールの子どもたちの現状と勉強に対する意欲を伝えるとともに、私自身が現地で感じたことや伝えたいことを正直に生徒たちに投げかけ、心情に訴えた。生徒たちの感想を見ると、その投げかけに真摯に応え、自己を見つめて自己変容を図ろうとする者が多く、手応えを感じた。ネパールに生まれなくて良かったというような否定的な感想は見当たらず、人間としての尊厳を尊ぶ姿勢を涵養することについても、一定の成果があったのではないかと思う。また授業実践後、対象クラスの生徒たちは授業者と会うと必ず、両手を合わせて笑顔で「ナマステー。」とあいさつするようになり、ほほえましいネパールブームが起こった。

私は学生時代等にアジア・アフリカを旅行し、訪れた国々で学校を訪問した経験がある。その体験を生徒に伝えようと、これまでにもHR活動や教科においてスライド等で説明しようと試みたことがあった。しかし、生徒の関心をうまく引きつけることができず、私の自己満足、もしくはただの自慢話のようになってしまい、その手応えのなさに自己嫌悪を味わうこともあった。今回の私の取組は、実物教材を使って視覚や聴覚や嗅覚に訴え、パワーポイントを使ってクイズやフォトランゲージを行い、心情に訴えることが中心だった。幸いにも生徒の反応は上々で、自分が経験したことをいかに生徒たちに伝えていくかという一つのモデルプランを作ることができた。

今後の課題としては、まず1つ目は、ネパールの光と陰をどう伝えていくかにある。今回の授業では生き生きと学ぶ子どもたちの姿に焦点を当てたが、卒業後も仕事がなく、街にたむろして路上ギャンブルをする若者は多い。単にネパールを美化したり、逆にマイナス面のみを強調するのではなく、ネパール社会が抱える問題を考えさせる必要がある。2つ目は、フェアトレードや募金活動など自分たちで何ができるのかを調べ、実践させていくことである。3つ目は、今回の取組を今後いかに継続させていくかである。今回の授業は2年生商業科2クラスの世界史Aで実施しており、すでに作成している年間計画の中から時間を捻出する必要があった。今後の教育課程上の位置付けについて、考えていかなければならない。

私は、教育は人と人の心の触れ合いにあると思う。教師と生徒、また生徒同士が感化し合い、自己を向上させていく試みが、学び合いではないだろうか。今回の取組が一定の成果を得ることができた要因は、生徒との良好な人間関係に加え、私自身が現地に行って肌で感じてきた臨場感や国際理解教育に対する姿勢が、生徒に伝わったのではないかと考えている。今後も、まず自分が心に多くのことを感じるような体験を積むことの必要性を感じるとともに、自分自身がどのような国際理解教育への信念や人生観を持つかが重要であると痛感している。

